

三十七尊等、大日如來の化身と<sup>①</sup>わみゆれども、其化身、三身圓滿の古佛にあらず。大品經の千佛・阿彌陀經の六方諸佛、いまだ來集の佛にあらず。大集經の來集の佛、又分身ならず。金光明經の四方四佛化身なり。總て一切經の中に各修各行の三身圓滿の諸佛を集て我分身と<sup>②</sup>わとかれず。これ壽量品の遠序なり。始成四十餘年の釋尊、一劫十劫等已前の諸佛を集て分身と<sup>③</sup>とかる。さすが平等意趣にも<sup>④</sup>にず、をびただしくをどろかし。又始成の佛ならば所化十方に充滿すべからざれば、分身の徳は備たりとも示現してゑきなし。天台云、分身既多、當知成佛久矣等云云。大會のをどろさし意をかゝれたり。其上に地涌千界の大菩薩大地より出來せり。釋尊に第一の御弟子とをぼしき普賢・文殊等にも<sup>⑤</sup>にるべくもなし。華嚴方等・般若・法華經の寶塔品に來集せる大菩薩、大日經等の金剛薩埵等の十六大菩薩なども、此の菩薩に對當すれば彌猴の群中に帝釋の來給がごとし。山人に月卿等のまじ<sup>①</sup>われるにことならず。補處の彌勒猶迷惑せり。何況其已下をや。此千世界の大菩薩の中に四人の大聖まします。所謂上行・無邊行・淨行・安立行なり。此の四人は虚空靈山の諸大菩薩等、眼もあはせ心も

をよばず。華嚴經の四菩薩・大日經の四菩薩・金剛頂經の十六大菩薩等も、此の菩薩に

①わ=は(前) ②わ=は(前) ③群十(る)(前) ④われ=は(前) ⑤[大]-前

對すれば翳眼えいがんのものゝ日輪を見るがごとく、海人あまが皇帝に向奉むかがごとし。大公等の四聖の衆中にあつしにいたり。商山の四皓しかうが惠帝けいていに仕へんにことならず。巍々堂々として尊高也。釋迦・多寶・十方の分身を除ては一切衆生の善知識ともたのみ奉りぬべし。彌勒菩薩心①に念言すらく、我は佛の太子の御時より三十成道、今の靈山まで四十二年が間、此界の菩薩・十方世界より來集せし諸大菩薩、皆しりたり。又十方の淨穢土に或は御使ごし、或は我と遊戯ゆうぎして、其國々に大菩薩見聞せり。此大菩薩の御師などはいかなる佛にてやあるらん。よも此釋迦・多寶・十方の分身の佛陀にはにるべくもなき佛にてこそをはすらめ。雨の猛たけを見て龍の大なる事②をしり、華の大なるを見て池のふかきことはしんぬべし。此等の大菩薩の來しる國、又誰と申佛すにあいたてまつり、いかなる大法をか習修し給つらんと疑し。あまりの不審ごさに音こゑをもいだすべくもなければども、佛力にやありけん、彌勒菩薩疑て云、無量千萬億大衆諸菩薩昔ヨリナリ所未テ曾見。是諸大威德精進菩薩衆誰爲其說ニ法教化而成就セル從誰初發心シ稱揚セル何佛法。○世尊我昔來未ニ曾見是事。願說ニ其所從國土之名號。我常遊ニ諸國未ニ曾見是事。我於ニ此衆中乃不レ識ニ一人。忽然從地出。願說ニ其因緣等云云。天台云、自寂場已降今座已往十方大士

①[に]—(宛) ②[を]—(宛)